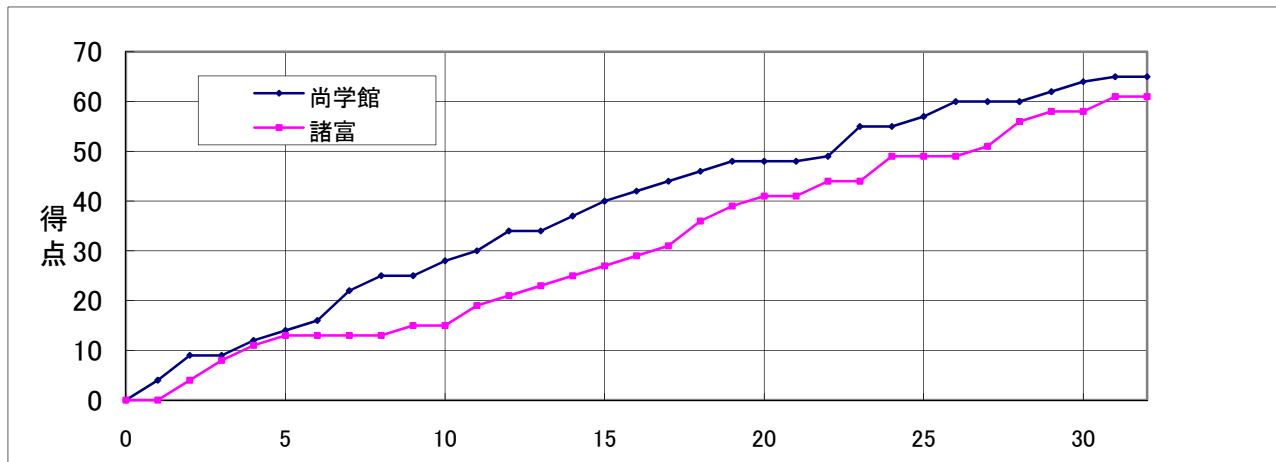


大会名	平成22年度 九州中学校体育大会 第40回九州中学校バスケットボール競技大会	B4	14:00	男子1回戦															
	期日	2010年(平成22年)8月6日(金)	尚学館 65 (宮崎2位) ○	<table border="1"> <tr><td>25</td><td>—</td><td>13</td></tr> <tr><td>17</td><td>—</td><td>16</td></tr> <tr><td>13</td><td>—</td><td>20</td></tr> <tr><td>10</td><td>—</td><td>12</td></tr> <tr><td>—</td><td>—</td><td>—</td></tr> </table>	25	—	13	17	—	16	13	—	20	10	—	12	—	—	—
					25	—	13												
17	—	16																	
13	—	20																	
10	—	12																	
—	—	—																	
会場	大分県立総合体育館	●	61 諸富 (佐賀1位)																

主審 森永 陽一 副審 二宮 健吾



タイム・アウト(経過時間)

1Q・2Q	3Q・4Q	OT1	OT2
10:23 14:49	22:42 31:27 31:53	—	—

尚学館

No.	選手氏名	得点	3P	2P	FT	F
4	* 夏井 隆光 (C)	18	1	7	1	2
5	* 松田 将馬	18	2	4	4	1
6	* 寺園 晟	9	3	0	0	0
7	* 廣瀬 友哉	14	0	6	2	4
8	* 松下 惟晟	6	0	3	0	2
9	岡村 祐汰	0	0	0	0	2
10	塩月 絃生	0	0	0	0	0
11	長野 佑哉	0	0	0	0	0
12	押川 眞輝	0	0	0	0	0
13	山田 颯士郎	0	0	0	0	0
14	廣瀬 玲旺	0	0	0	0	0
15						
16						
17						
18						
コーチ	佐々木 博之					
合計		65	6	20	7	11

タイム・アウト(経過時間)

1Q・2Q	3Q・4Q	OT1	OT2
06:55	— 30:18 31:51	—	—

諸富

No.	選手氏名	得点	3P	2P	FT	F
4	* 中島 大瑛 (C)	2	0	1	0	3
5	* 金田 新平	5	1	0	2	5
6	* 磯部 圭司	3	0	1	1	1
7	市丸 寛葵	6	0	3	0	5
8	* 池内 崇将	12	0	5	2	1
9	梅山 晃平	0	0	0	0	0
10	山田 圭晃	10	2	2	0	2
11	西原 亮也	0	0	0	0	0
12	諸隈 聖也	0	0	0	0	0
13	富崎 太一	0	0	0	0	0
14	* 吉田 諒介	23	2	8	1	2
15	松永 拓巳	0	0	0	0	0
16	大塚 龍也	0	0	0	0	0
17	高近 雅人	0	0	0	0	0
18	秋庭 駿	0	0	0	0	0
コーチ	貞松 大					
合計		61	5	20	6	19

*…スターター (C)…キャプテン 3P…3点シュート 2P…2点シュート FT…フリースロー F…ファウル R…リバウンド As…アシスト

戦評

Bコート第4試合、宮崎代表・尚学館中学校と佐賀代表・諸富中学校の試合。両チームともマンツーマンディフェンスでスタートする。尚学館#4夏井がドライブインを決め始める。さらに#4夏井の連続シュートが決まりリードする。一方、諸富の#14吉田がシュートを決め反撃を開始する。両チーム、一進一退の攻防となる。尚学館#6寺園の3P、直後に諸富#14吉田が3Pを決め返す。その後、尚学館#5松田のバスケットカウント1スローにより点差が徐々に広がる。その後、ハーフマンツーマンのプレッシャーを強めた尚学館がリードを広げ25-13で1Q終了する。

2Q、リズムを変えたい諸富はゾーンでスタートする。しかし、尚学館はバスをしっかり回しアウトサイドシュートを決めリズムを崩さない。諸富も得点を重ね、一進一退の攻防が続く。諸富は#8池内、#14松永がシュートを決めれば、尚学館の#7廣瀬がバスケットカウント1スローを決め返しなかなか点差が縮まらない。尚学館は#4夏井#6寺園が要所でシュートを決め42-29で尚学館のリードで前半を終了する。

3Q、尚学館#4夏井のシュートで後半がスタートする。諸富は#7市丸、#5金田、#8池内の連続得点で点差を詰める。諸富#14吉田の3P、対して尚学館#4夏井のバスケットカウント決め激しい攻防が続く。残り2分47秒、諸富#7市丸が4つの個人ファールでベンチへ下がる。両チームとも流れを掴めず点差が変わらない。残り1分から諸富はオールコートのディフェンスでプレッシャーをかけ点差を詰め55-49、尚学館6点リードで3Qが終了する。

4Q、尚学館は#4夏井が中心となりリードを広げる。一方、諸富は#14吉田、#10山田が得点を重ねる。諸富#5金田が残り3分50秒でファールアウトとなるが諸富のオールコートディフェンスが尚学館の焦りを誘う。なかなか点差が縮まらない諸富が残り1分42秒となったところでタイムアウトを取る。残り1分、4点差となり今度は尚学館がタイムアウトをとる。尚学館はボールをコントロールし65-61で逃げ切り勝利する。

© 2010 Yuzo Kosaka All Rights Reserved Vol.0063

記者 野田、石田 (所属) 大分県中体連バスケット専門部